

PRAEVIDENTIA DAILY (9月2日)

昨日までの世界：円全面安

昨日は米金融市場が休場で米国発の材料に限られる中、ドル/円が一時 104.35 円へじり高となったほか、対その他通貨でも小幅ながら円が全面安となった。米 10 年債利回りは低下基調、2 年債利回りも上昇一服・反落してきている中で、米国発のドル高の色彩は強くない中、消去法的に本邦サイドで日銀追加緩和期待が高まっている可能性がある。先週発表の家計調査や鉱工業生産の予想比下振れなど、消費増税後の反動減が予想外に大きく、反動減からの回復が鈍いとの認識が広がりつつあり、例えば昨日内閣府参与の本田悦朗教授は消費税の追加増税は 1 年半先送りが望ましいと述べている。消費増税先送りは国際社会からの異次元緩和(≒円安政策)への批判を強めるリスクがあり、必ずしも円安要因ではないが、現在のところは景況感の悪化と追加緩和期待が円売り圧力となっているかもしれない。

その他、NZ ドル、カナダドル、豪ドルやポンドが対ドルで強含みで推移した。中国製造業 PMI は講師気分が 51.1、HSBC 分の改定値が 50.2 と前月からの悪化、ほぼ市場予想通りだが若干下回る、という結果だったが売り材料とはならなかった。英国でも、製造業 PMI が 52.5 と前月および市場予想を大きく下回ったが、ポンドはそれ以前に上昇していたこともあって反落は限定的だった。全体として、新規材料を受けた動きというより、米国休場で取引閑散の中、フロー主導の動きだったとみられる。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.2	-0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.0	+0.3	+0.0	-0.4
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.0	-0.02	-0.02	+0.00	-0.01	-0.01	+0.00	-0.0	+0.0	-0.4	+0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.1	+0.00	+0.00	+0.00	+0.02	+0.02	+0.00	+0.1	+0.0		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.1	+0.01	+0.01	+0.00	+0.03	+0.03	+0.00	+0.0	+0.8	+0.0	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.2	+0.01	+0.01	+0.00	-0.00	-0.00	+0.00	+0.0	+0.8	+0.0	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.1	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.0	+0.0	+0.0	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：ISM は OPTIM-ISM を強めるか？

きょうの注目通貨：GBP ↓

来週の指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪 7 月建設許可件数	10 : 30	-5.0%	+2.0%	
豪 2Q 経常収支・豪ドル	10 : 30	-56.7 億	-140 億	
豪 RBA 金融政策決定	13 : 30	2.50%	2.50%	
スイス 2Q GDP 前期比	14 : 45	+0.5%	+0.5%	
英 8 月ハリファクス住宅価格・3 か月前対比	16 : 00	+10.2%	+9.9%	
英 8 月建設業 PMI	17 : 30	62.4	61.4	
米 8 月 ISM 製造業景況指数	23 : 00	57.1	56.9	

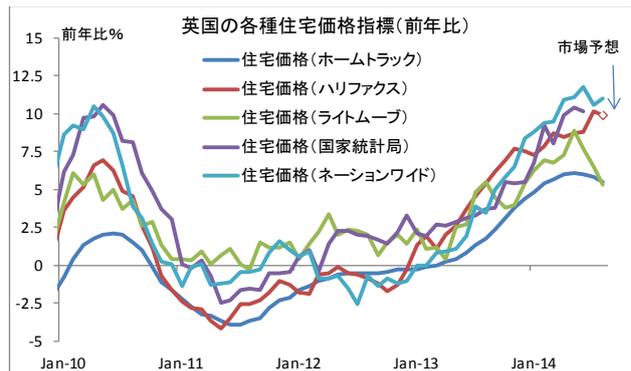
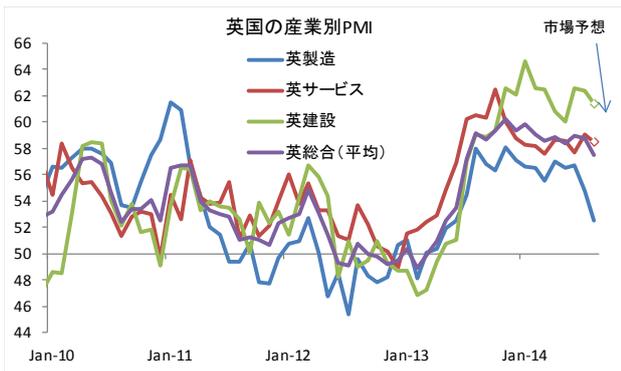
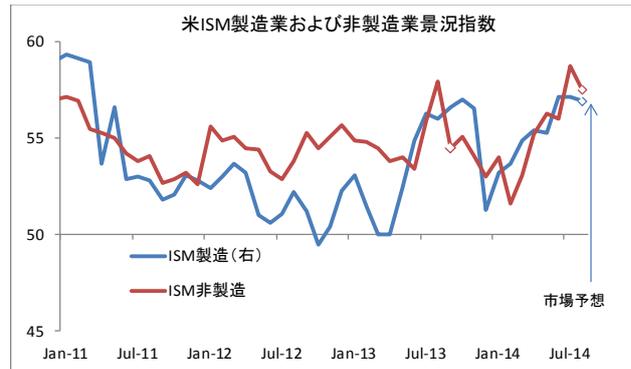
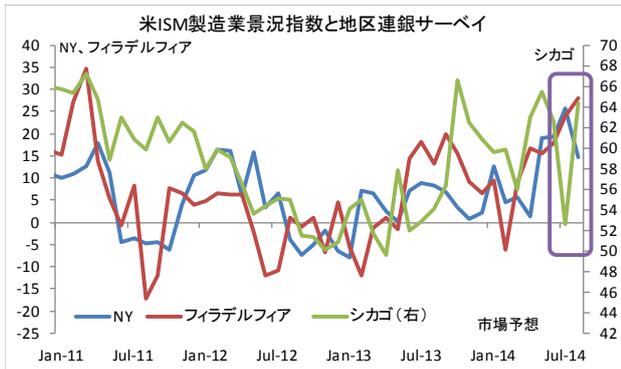
(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

ドル/円については米 ISM 製造業景況指数が注目される。このところ 104 円丁度を挟んだレンジだがどちらかというと強含みで推移している中で、ISM 製造業が前月および市場予想を上回れば、104 円台半ばへ続伸しよう。もっとも、これまで発表された地区連銀サーベイはまちまちで、フィラデルフィアとシカゴは前月から改善したものの NY は悪化している(下図を参照)。また 4 日発表の ISM 非製造業分も製造業分と同様に前月か

らの悪化が予想されており、予想通りの方向感であれば、企業景況感は利上げ期待の高まりとドル上昇の牽引役とはならなそうだ。米国の利上げ期待のバロメーターである2年債利回りは8月26日に0.52%でピークをつけたあと上昇一服・小反落基調となっており米金融市場で利上げ早期化機運が高まっている訳でもない。

ポンドについては、昨日の英製造業PMIのやや大幅な悪化に続き、本日発表の建設業PMIやハリファクス住宅価格も前月からの小幅低下が予想されており（下図を参照）、どちらかというポンド安要因だ。

この間、豪ドルについては、RBA政策理事会では中立姿勢の維持が予想され（「金利の安定期が賢明」）、経済指標についても建設許可件数は改善、経常赤字は拡大とまちまちの結果が予想されていることから、豪州発の材料では豪ドルに強い方向性が出なそうだ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者(投資助言・代理業) 関東財務局長(金商)第2733号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641